



いなみっ子

(題字は昨年度県書き初め大会出場児童)

自ら学ぼうとする子供を目指して

研究主任 隈元新太郎

本校では、「自ら学ぼうとする子供の育成」というテーマのもと、子供が自ら課題をもち追究する中で、自分の学習状況を把握し自己調整しながら学習を進めたり、友達の多様な考えに触れ自分の学びを見つめたりする姿を目指しています。11月16日(木)の「教育実践発表会」では、授業公開を行い、市内外の先生方や地域の方から、本校の研究についてご意見をいただきました。

4年生の社会科「地域で受けつがれてきたもの～井波・太子伝～」の学習では、「太子伝」や「太子伝観光祭」の歴史等について資料や地域の方の話を基に、太子伝が長く続いている理由を考えました。その中で子供たちが注目したのは「木遣り踊り」です。街流しが一度なくなったのに、なぜ復活したのだろうと疑問をもち、踊り手のことや復活させた人のことを調べました。家族にインタビューしたり、当時の様子を調べたりしながら、様々な立場の人々の思いに触れ、しっかりと自分の考えをもって伝えることができました。



<人々の思いを基に、
自分の考えを話す子供たち>



<つり合う時の決まりについて
追究を進める子供たち>

6年生の理科「てこのはたらき」の学習では、均一でまっすぐな棒を用いて、支点を決めたりおもりの位置を変えたりしながら、てんびんがつり合うときのきまりを見付けました。そして次に、左右の太さが違う不均一な棒でのつり合うときのきまりを確認することにしました。自分たちが見付けた均一な棒のきまり通りにいかないことから、改めて、てんびんのきまりの不具合を考え始めました。友達の考えを聴き合い、新たな見方に気付いたり考えを見直したりしていました。

参観していただいた先生方からも、子供たちが体験したり調べたりしたことを基に課題に向かって追究している姿から、教師の支援の在り方について、活発な意見が交わされました。

これからも「自ら学ぼうとする子供」を目指して、研究を進めていきたいと思えます。

自分の力に応じたペースで最後まで走り抜こう

体力づくり指導担当 笹谷 和生

10月31日(火)に、持久走記録会を行いました。子供たちは、保護者の方からのたくさんの声援を受け、自分の目当ての達成に向けて、ゴールまで真剣に走り抜くことができました。

実際のコースを使った練習ではいろいろなことがありました。1回目の練習ではペースをつかめず、途中で歩いてしまう子供もいました。2回目の練習で順位やタイムが落ち、やる気を失いかけている子供もいました。しかし、練習後の振り返りでは、「次は、歩かないように、しっかり走り抜きたい。」「もう少しして、歴代記録になるから、がんばりたい。」など、自分に合った目当てを決め、次の練習や記録会に取り組む姿が見られました。

当日は、自分の決めた目当てを達成しようと一度も歩くことなくゴールまで走りきる子供や、練習の時より1分以上タイムを縮めた子供など、どの子供も自分の力に応じたペースで、ゴールまで走り抜くことができました。これまでの練習への取組や当日の声援が、子供たちに大きな力を与えたのだと思えます。

